

2020 年度入試状況分析【国公立大】

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎志願者数が多い大学

□志願者数最多は、5年連続で千葉大

〔志願者数が7,000人以上だった大学〕

大学	2020年度			2019年度			志願者 増減数	志願者指数	
	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率		2020年度 ／ 2019年度	2019年度 ／ 2018年度
千葉大	2,084	10,212	4.9	2,086	10,611	5.1	-399	96	99
北海道大	2,436	9,752	4.0	2,438	10,341	4.2	-589	94	105
神戸大	2,311	9,315	4.0	2,313	9,959	4.3	-644	94	100
東京大	2,960	9,259	3.1	2,960	9,483	3.2	-224	98	98
大阪府立大	1,165	8,089	6.9	1,165	8,408	7.2	-319	96	99
東京都立大	1,194	7,885	6.6	1,206	8,593	7.1	-708	92	104
京都大	2,635	7,699	2.9	2,636	8,025	3.0	-326	96	97
横浜国立大	1,366	7,581	5.5	1,366	8,016	5.9	-435	95	98
大阪大	2,878	7,462	2.6	2,878	7,536	2.6	-74	99	96
富山大	1,429	7,312	5.1	1,428	8,437	5.9	-1,125	87	100
九州大	2,335	7,241	3.1	2,341	7,548	3.2	-307	96	98

上の表は、大学全体の志願者数が、文部科学省発表の最終確定値で7,000人以上だった国公立大をまとめたものです。志願者数が7,000人以上だった大学は11大学で、前年度より4大学少なくなり、11大学全てが減少しました。11大学のうち、第4位の東京大、第9位の大阪大はいずれも前期のみの募集です。第7位の京都大の後期は、特色入試として実施の法学部のみの募集です。また、第5位の大阪府立大は中期でも募集している大学です。

2020年度入試での志願者数が最も多かったのは、5年連続で千葉大でした。志願者数は国公立大で唯一1万人を上回り、2010年度から11年連続で志願者数が1万人を上回りました。

第2位の北海道大は、3年ぶりに志願者数が減少しました。前期、後期とも募集人員の多い学部、方式の減少数が大きかったことが影響しましたが、それでも2年連続で全国第2位の志願者数となりました。

第3位の神戸大は、3年連続減少で、減少率はこの3年で最も大きくなりました。難関大の中では全体的にセンター試験の比重が大きめであり、さらに個別試験が標準的な出題であることから、センター試験で思ったような得点をとれなかった層が敬遠したことが要因です。

第5位に大阪府立大、第6位に東京都立大という大都市圏の公立大が入っています。いずれも募集人員は1,200人にも満たない大学ですが、一部の学部で大阪府立大では中期での募集を、東京都立大ではセンター試験3教科型の募集を行っています。こういった、他の国公立大や私立大との併願者を多く獲得できる入試方式を実施している効果もあり、受験生数が多い大都市圏に立地する利点と難易度が最難関大に次ぐ位置ということも有利に働き、志願者数が多くなりました。

大都市圏以外の大学では、第10位の富山大は2015年3月の北陸新幹線の金沢への延伸により、首都圏からの所要時間が大きく短縮されたことにより志願者数が増加していましたが、1割以上減少したことで4年ぶりに8,000人を下回りました。